

『資本論』(第二分冊)に入りました!!

次回日程は

日時：2020年4月21日(火)

午後6時～ 会場：支局・社青同事務所

DAS KAPITAL

『資本論を読む会』(第19回)



3月24日の「資本論を読む会」は、ついに岩波文庫の第二分冊に入りました。やったところは「第5章 労働過程と価値増殖過程」の「第1節労働過程」でした。今回の参加者は7人。4月から転勤となるU君の送別会をやることと、時節柄「コロナ・ウィルス自粛」もあって、読み合わせ討論は1時間で切り上げました。地下の飲食街は、馴染みの客で一杯になっている店と閑散とした店とに、明暗分かれていましたね。「資本論」は第5章に入って「分かりやすくなった」との声。今回のテーマ「剰余価値の生産」は、若い頃学習会でやった「賃金・価格および利潤」が頭にあると「結論は分かる」「問題はマルクスの難解な表現だ！」なんて声もありましたよ。

初めての方大歓迎です。また、これまでの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから

☆レポート『資本論』第3篇 絶対的剰余価値の生産

第5章 労働過程と価値増殖過程 第1節 労働過程 —岩波文庫(二) P9-22

※英語版では Section 1.-The Labour-Process or the Production of Use-Value 「労働過程または(すなわち)使用価値の生産」とある。「向坂訳は何故“使用価値”の言葉を略したのかな」という事が話題になりました。

(労働過程の考察)では

◎労働過程の3要素(※結論)…労働、労働対象、労働手段 — p11

①労働はまず第一に、人間と自然とのあいだの一過程である。すなわち、彼自身の行為によって媒介し、規制し、調整する過程である。 — p9-10

・最初は、まずいかなる特定の社会的形態からも、独立に考察されるべきものである。 — p9

・彼は彼自身の自然を変化させる。…眠っている潜在能力を発言させ、その諸力の活動を、彼自身の統御に服させる。 — p10

※ここでは、蜘蛛、蜜蜂のような、労働の最初の動物的に本能的な諸形態は問題としない。… p10

②労働対象 — p11

・天然に存在する労働対象—木、鉱石

・過去の労働によって濾過されている(媒介された変化を受けている)労働対象—原料

③労働手段 — p12-13

・労働者が自己と労働対象とのあいだに置き…彼の目的に応じて…作用させる。直接に支配する対象は…労働手段である。—土地、石器、飼育動物

・フランクリンは人間を、すなわち道具を作る動物と定義している。

・労働によって、すでに媒介された労働手段…労働用建物、運河、道路

◎この全過程を、その結果なる生産物の立場から見れば、労働手段と労働対象との二つは、生産手段として、労働そのものは生産的労働として、現れる。 — p15

◎ある使用価値が原料として現れるか、労働手段として現れるか、それとも生産物として現れるかは、全く労働過程におけるその特定の機能に、労働過程において占める位置によるのである。 — p17

◎資本家による労働力の消費過程として行われるような労働過程…二つの特有な現象

①労働者は、彼の労働を所有する資本化の管理の下に労働する。

②生産物は資本家の所有物であって、直接生産者の労働者の所有物ではない。 — p21

◎労働過程の3要素…労働、労働対象、労働手段 — p11

◎労働過程は、資本家が買った物と物とのあいだの、彼に属する物と物とのあいだの一過程である。

※この節の要約点は、だいたい以上のようなものでした。(from anak)